

令和 8 年度（2026 年度）第 1 回学校運営協議会 議事概要

- | | |
|--------|---|
| 1. 日 時 | 令和 8 年(2026 年)5 月 22 日 19 時 00 分～20 時 20 分 |
| 2. 場 所 | 豊中市立熊野田小学校 校長室 |
| 3. 出席者 | (委員) 5 名 (定数 8 名)
(事務局) 校長、教頭 |
| 4. 次 第 | (1) 学校運営協議会について
(2) 会長、副会長の選出について
(3) 学校の取組みについて (学校経営方針について)
(4) 学校諸課題について・意見交流 |

【議事概要】

(1) 学校運営協議会について

学校教育課作成の資料を基に、事務局より説明を行った。

(2) 会長、副会長の選出について

出席者の承認を得て、会長、副会長を選出した。

会長：生田委員、副会長：田中委員

(3) 学校の取組みについて (学校経営方針について)

学校経営方針について、事務局より説明を行った後、協議会の承認を得た。(別紙参照)

(4) 協議・意見交流

☆重点目標『子どもの困り感を多面的に捉え、チームで支える』

- ・本校には、支援学級や通級指導を含め、学習面・情緒面において何らかの支援を必要とする児童が多く在籍している。子どもの困り感を「個人の特性」のみに帰するのではなく、環境・指導・人との関係性との相互作用として捉える視点を大切にし、チームで子どもたちを育てていく。
- ・コグトレや MIM を取り入れ、認知機能の強化を図ることで子どもたちの困り感を軽減していくとともに、学習の土台を築いていく。

【協議テーマ】

「この地域の未来を、子どもを軸にどう描くか」「地域と一緒に子どもを育てるとは」

- ・過去、地域には農村家庭とサラリーマン・転勤族との間に学歴格差があった。それが、ようやく混ざり合って今に至る。しかし、地域の大人の中でも、年代によって差（生活基盤や考え方の違い）があったり、子どもとの関わりが異なったり、難しい状況。先日行った公民分館体育祭のような、様々な世代が子どもと関わる機会を大切すべき。
- ・コロナ禍で行事やイベントのあり方・形が変わってきているが、熊野田はしっかりと繋がりを維持できている。また、八坂神社の祭りなど、伝統を引き継ぎ、みんなで楽しむことができている。泉丘などは、八坂神社の祭りを宗教行事と捉え、自治会としての参加を見合わせている。
- ・泉丘や東泉丘は新しい街にもかかわらず、活動が活発（地区協議会の存在が大きい）。

東泉丘小が新設されたころは、「子どもにふるさとなが必要」との校長の方針により、祭りなどのイベントが始まり、PTA も積極的に活動した。熊野田でも PTA 活動の活性化が望まれるが、1 年ごとに役員が交代する現状、保護者が共働きで忙しい現状、PTA の加入率が低下している現状ではなかなか難しい面がある。

- ・PTA を廃止した十五中が今後どうなっていくのか心配。
- ・子どもは学校を離れたら孤独。家族の形・時代が変わっている。若い世代を学校・地域に引き付けることが必要。
- ・批判的な親、関わりを持とうとしない親、「やってもらおう」側の親が多い。そういった人々がコミュニティをもって多くの人と交流すること、そこで親の教育を行っていくことが大切。
- ・やる気のある親を発掘して、PTA で活躍してもらおう。PTA がどのような活動を行っているのか、もっと広報委員会を活用して、保護者向けに PTA の活動を発信していく必要がある。そもそも、学校に協力的な保護者を増やしていくことが大切。
- ・愛着障害の児童が多い。そういった児童は、多くの人・多様な人との関わりが希薄になっている。だからこそ、そのきっかけとなるイベントや行事はすごく大切。
- ・コロナ以降、公民分館でも新たなメンバーがあまり増えていない。今年度より、入ってすぐ副部長ではなく、小学校の PTA と同様「お助けスタッフ」を導入し、敷居を低くした。熊野田校区での地域協議会の導入を検討している。
- ・子ども会へ入会する子どもが減少しているだけでなく、子ども会でリーダー役を務める人物がいなくなっている（現状保護者が務めている）。
- ・子どもの教育を家庭がきちんと担えていない。そもそもできない。学校に何でも任せるということが間違っている。
- ・親を変えるのは難しい。未来を担う子どもたちをしっかりと教育していくことが大切。